

準ミリ波帯広帯域固定系無線アクセスシステム技術の研究開発（株式会社日立国際電気）平成15年度中間評価結果

整理番号	評価	所見	再評価	再所見
14-08	A	<p>1.8GHz帯無線アクセスシステムの導入に向けた制度化が進んだ。本計画で研究開発を行う比較的長距離までカバーする自営系無線アクセスシステムは、地方自治体・防災用途だけではなく、地域インフラなど他にも需要があるものと思われる。計画の実施状況は概ね順調であると判断される。ただし、次年度、実試験に基づき行われる適応変調・QoS制御方式アルゴリズムの実装評価は、試験条件、環境、時間も限られることから最適解を得ることは容易ではないと思われる。室内検討を先行させることを検討されたい。本研究開発により、適応変調・QoS制御技術が確立され、準ミリ波領域以外のワイヤレスアクセスにも適用できることが期待される。</p> <p>事業化関係については、事業化に向けての計画が明確であること、国内市場は限られているものの、長距離伝送による立地条件上の問題の軽減等一定の技術優位性が確保できること、海外市場の可能性も有することなどが評価できる。なお、事業化体制面では、今後新製品を提案するマーケティング力を強化していくことが望まれる。</p>		